



学校教育目標 「自立・創造・貢献」

小中一貫教育校

高萩北中だより

令和8年6月24日 第4号



考えよう
家族みんなで
スマホのルール

私たちは子どもたちの情報でうんちん感に振り回されます

高萩北中プロジェクト

優しさがあふれる学校へ

校長 内藤 将智

梅雨空の日が続くこともあり、湿気の多い季節ですが、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。

3年生の修学旅行(京都・奈良方面)を皮切りに、2年生の校外学習(東京方面)、1年生の校外学習(川越市内)と旅行的行事が続きましたが、いずれの学年においても、多くの学びを得ることができました。

修学旅行では、本校の生徒が、移動中の電車でさりげない思いやりを見せてくれました。高齢の方と幼児を抱いた女性が乗車してきた際、迷うことなく立ち上がり、席をゆずりました。また、校外学習においても、混雑した車内で降車しようとした女性のために、本校の生徒が体を寄せ合って、一番奥の席からドアまで通路を作ったそうです。この女性は生徒の優しさに感動し、感謝の連絡を学校に入れてくださいました。

これらは本校が大切にしている「温かい学校」を体現した素晴らしい実践であり、校長として大変嬉しく思います。

しかしながら、一方で、公共の場や下校時のマナーなどについて、地域の方から厳しいご指摘を受けることがあることも現実です。引き続き、子どもたちの公共心や公德心、人権感覚を高め、豊かな心の育成に邁進してまいります。

6月2日の学校朝会では、「日本人の優しさ」について話しました。

ある旅行会社が、海外の旅行客を対象に「もう一度訪れたい世界の国」を調査したところ、1位は日本であったとのこと。理由は様々ですが、その中の一つとして、「日本人の優しさ」を挙げる旅行客が多いのだそうです。日本人の優しさが海外でも評価されていることは、とても嬉しいことです。

講話の最後には、「自分の中にある優しさを普段の学校生活で表すために、①困っている人を助けましょう。②教室や廊下、トイレなど、生活の場をきれいに使いましょう。③友達の気持ちを想像して、言葉を選びましょう。」と伝え、「北中が、誰から見ても優しさがあふれる学校だと言われるようにしていきましょう」とまとめました。

優しさや思いやりは、急に身につくものではなく、日々の小さな経験の積み重ねであると考えています。ご家庭でも、「今日、誰かに優しくできた場面はあった?」「今日、誰かから優しくしてもらったことはあった?」といった声かけをしていただけだと、子どもたちの優しさがさらに育っていくと思います。

本校の子どもたちが、「優しさを形にできる人」として育っていけるよう、これからも学校と家庭、地域で手を取り合っていければ幸いです。

5・6月にあった主な行事



6/5・6 通信陸上県大会



6/16 1 年校外学習（川越市内）



6/22 高萩北小・中合同研修会

※事情により予定を変更する場合があります。

【雨漏り・破損箇所及び盗撮行為防止のための点検報告について】
台風接近に伴う臨時休校となった6月3日（水）に、標記に係る点検を各教室において実施しました。点検の結果、雨漏りや破損箇所、不審物は確認されませんでした。
今後も安心、安全な学校づくりに向けて取り組んでまいります。